

事務事業名		消防団研修事業				☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	03 安全なまちづくりの推進				事業期間		予算科目				
	施策名	08 消防・救急・救助体制の充実										
	基本事業名	02 消防体制の充実				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 昭和48 年度～) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度～年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		01	09	01	02	07
根拠法令	消防組織法											
所属	部課名	大船渡地区消防組合大船渡消防署				総投入量 (千円)		事業費 内訳	全体計画(※期間限定複数年度のみ)			
	係名	大船渡消防署消防団係		電話 内線	27-2119 33							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)												
・部長・班長・機関員教養について 科学技術の進歩や生活形態の変化に伴い災害の形態や要因も複雑多様化している。部長・班長教養は消防団員のこれらの災害に対する知識や技術を向上させる目的で実施されており、現場責任者としての自覚と指揮能力の習得のために、大船渡市地域防災計画について(学科)や消防訓練礼式(実科)を行う。(費用弁償) また、機関員教養は消防ポンプの知識と操作技術の向上を目的に学科と実技を行う。(費用弁償) ・初任団員教養は、消防団員としての基礎的な知識や技術を身につけさせるために、消防法に基づく立ち入り検査の説明(学科)、消防ポンプ操法、規律訓練等(実科)を行う。(費用弁償) ・幹部研修は、消防団活動の運営(施設、装備、消防団の活性化等)や事業の改善を図るため、気仙支部の先進地研修と隔年で実施している。対象は、幹部会構成員である。(市バスを使用・費用弁償) ・事業費は、参加者の費用弁償として支出される。												

1 現状把握の部 (DO)

(1) 事務事業の目的と指標		(5) 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
① 手段(主な活動)		名称	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		単位	
学科は、シーパル大船渡会議室を使用して大船渡市地域防災計画や消防計画(班長、部長教養)ポンプの構造、機関運用(機関員教養)を行い、市民体育館において訓練礼式(班長、部長教養)、盛川河川敷で放水訓練(機関員教養)を実施した。		ア 初任団員教養	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		イ 部長・班長・機関員教養	
昨年度と同等の教養内容を計画している。		ウ 幹部研修	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
大船渡市消防団の部長・班長・団員を対象		名称	
		単位	
		カ 初任団員	
		キ 部長・班長・機関員	
		ク 幹部会構成員	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
大船渡市消防団員の資質の向上		名称	
		単位	
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		サ 初任団員教養出席	
消防団員の資質の向上を図ることにより、発災時に的確な消防活動ができる。		シ 部長・班長・機関員教養出席	
		ス 幹部研修参加	

(2) 総事業費・指標等の推移			年度	17年度 (実績)	18年度 (実績)	19年度 (実績)	20年度 (実績)	21年度 (実績)	22年度 (実績)
			単位						
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千 円					
		都道府県支出金	千 円						
		地方債	千 円						
		その他	千 円						
		一般財源	千 円	845	845	635	701	612	638
		事業費計 (A)	千 円	845	845	635	701	612	638
	人件費	正規職員従事人数	人	28	28	28	2	2	2
		延べ業務時間	時 間	980	980	980	720	720	720
		人件費計 (B)	千 円	3,920	3,920	3,920	2,880	2,880	2,880
		トータルコスト(A)+(B)	千 円	4,765	4,765	4,555	3,581	3,492	3,518
⑤活動指標	ア	1回	1	1	1	1	1	1	
	イ	1回	1	1	1	1	1	1	
	ウ	1回	1	1	1	2	2	1	
⑥対象指標	カ	27人	1110	1087	1062	76	55	27	
	キ	172人	1110	1087	1062	366	366	172	
	ク	42人	1110	1087	1062	42	42	42	
⑦成果指標	サ	17人	33	21	18	32	31	17	
	シ	135人	141	139	123	86	126	135	
	ス	14人	11	13	4	4	3	14	

事務事業ID	1099	事務事業名	消防団研修事業
--------	------	-------	---------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？
昭和48年に大船渡地区消防組合は発足し、大船渡地区消防組合消防計画に基づき実施している。また、消防組織法第52条及び大船渡市消防教養基準規則に基づき実施している。

② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？
大船渡市消防団の人事異動により、新たに団員・班長及び部長が任命されるなど、組織が刷新されている。また、共同住宅の増加に伴う生活様式の変化や、火災予防条例改正に伴う住宅用防災機器の設置等消防活動に対する知識と技術の向上が求められている。

③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？
消防団員は、消防に関する新しい知識と技術の習得を望んでおり、これらを得ることに伴って確実に災害に対応できる消防団となれることに市民は大きな期待と安心感を得ることができている。

2 評価の部(SEE) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？ 火災や水害、地震津波等の災害が発生したとき適切な消防活動が行われている。
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？ 市町村は当該市町村の区域における消防を十分に果たすべき責任を有することから公共関与は妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？ 大船渡市消防団員が対象であることから適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ 消防活動を行う消防団員は教養訓練は必要であり成果も向上している。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒ [その内容] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ 消防活動に携わる消防団員の知識と技術及び指揮能力の低下を招く。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 他に手段がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？ 消防活動という特殊な活動に対応するための教養訓練であり、この事業以外に方法はなく、類似事業もない。
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) 特別な教養資料や資機材の購入をしていないので、これ以上削減できない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど) 消防団員への講習なので講師は消防業務に精通している消防職員が適当であり講師料がかからない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒ [理由] → 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？ 大船渡市消防団の資質の向上を図るための事業であるため、その費用の負担は公費によるものが適切である。

事務事業ID	1099	事務事業名	消防団研修事業
--------	------	-------	---------

3 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果（2枚目と整合を図ること） <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括（振り返り、反省点） 実施にあたって団員・班長及び部長の職場の負担を考慮し、毎年に日曜日に実施している。このことにより欠席者が少なく今後も研修で成果を上げていくのが最良と考えている。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性（改革改善案）・・・複数選択可（ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可） ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善（ ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善 ） （上記方向性に対する具体的な内容）		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 （廃止・休止の場合は記入不要） <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 																							

（職 名） ※原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者 大船渡消防署長

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

- ① 記述水準（1次評価の記述内容を読んだ段階で選択）
- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている
- ② 評価の客観性水準（2次評価を行った後に総合的に判断して選択）
- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている（事務事業の問題点、課題が認識されていない）
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている（事務事業の問題点、課題が認識されている）

(2) 2次評価者としての評価結果

- | | | |
|---------|--|----------------------------------|
| ① 目的妥当性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ② 有効性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ③ 効率性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |
| ④ 公平性 | ☒ 適切 | ☐ 見直し余地あり |

(3) 評価結果の根拠と理由

事業の問題点を十分把握した上で計画がなされている。

(4) 次年度の方向性（改革改善案）・・・複数選択可（ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可）

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
 事業のやり方改善（ ☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善 ）
 （上記方向性に対する具体的な内容）

消防力一翼を担う消防団の教育・訓練は毎年続けなければならない。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
 （廃止・休止の場合は記入不要）

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項